

BRAVE

POWERED by HONDA

ログスプリッタ取扱説明書

VH2400GX

VH3000GX

* 機種-----

* シリアル No, ----

* ご購入日-----

BRAVE ログスプリッタをお買い上げいただきありがとうございます。

ログスプリッタを使用する前に、このマニュアルをよく読んで理解してください。

このログスプリッタは、油圧駆動で動くウェッジを用いて、丸太を分割するように設計された機械です。

ログスプリッタのガソリンエンジンは、油圧システムを加圧するために使用されます。

このログスプリッタは、木目縦方向にログを分割するように設計されています。

このログスプリッタモデルでは、長さ 60cm、直径 40cm までのログを分割できます。

スプリッタは、垂直または水平の位置で使用できます。

- 水平位置で動作するようにスプリッタをセットアップすると、ウェッジがログの端部に水平に移動して分割します。
- スプリッタを垂直位置で動作するようにセットアップすると、ログは直立してエンドプレートの上に置かれ、ウェッジがログの上部に移動して丸太を分割します。

水平位置は、ビームに容易に載せられる軽量のログに使用されます。垂直位置は、重いログに用いられます。

ログスプリッタの技術仕様は、このマニュアルの「仕様」ページに記載されています。

⚠ 警告

本製品の操作者は、安全に関する情報、操作方法、保守・保管方法を読み、十分に理解している必要があります。ログスプリッタの適切な操作及び保守を怠ると、運転者及び見物人に重大な損害を与えるおそれがあります。

このログスプリッタは高圧油圧システムを用いて非常に強い破砕力を発生します

取扱説明書をよくお読みになって、安全な操作方法やメンテナンス方法をご理解ください。

この取扱説明書に記載されているすべての安全上の注意に従ってください。

注意 （この装置を他の人に貸し出すすべてのレンタル会社と個人所有者）

ログスプリッタを保有したり作業するすべての人は、このマニュアルを読む必要があります。この取扱説明書は、スプリッタに必ず保管し、機械を操作するすべての人に読んでもらってください。スプリッタを安全に操作する方法を理解し、作業する人の疑問に答えるために、いつでも読める状態にしておく必要があります。

はじめに

- ログスプリッタを使用する前に、この取扱説明書とエンジン取扱説明書をよくお読みください。安全に関する指示を守らないと、重傷を負う可能性が想定されます。

- ログスプリッタの所有者は、すべてのオペレータに安全な操作方法を指示する必要があります。
- ログスプリッタは木材の縦方向の分割にのみ使用してください。不測の事態を招く恐れがありますので、他の用途には使用しないでください。

改造禁止

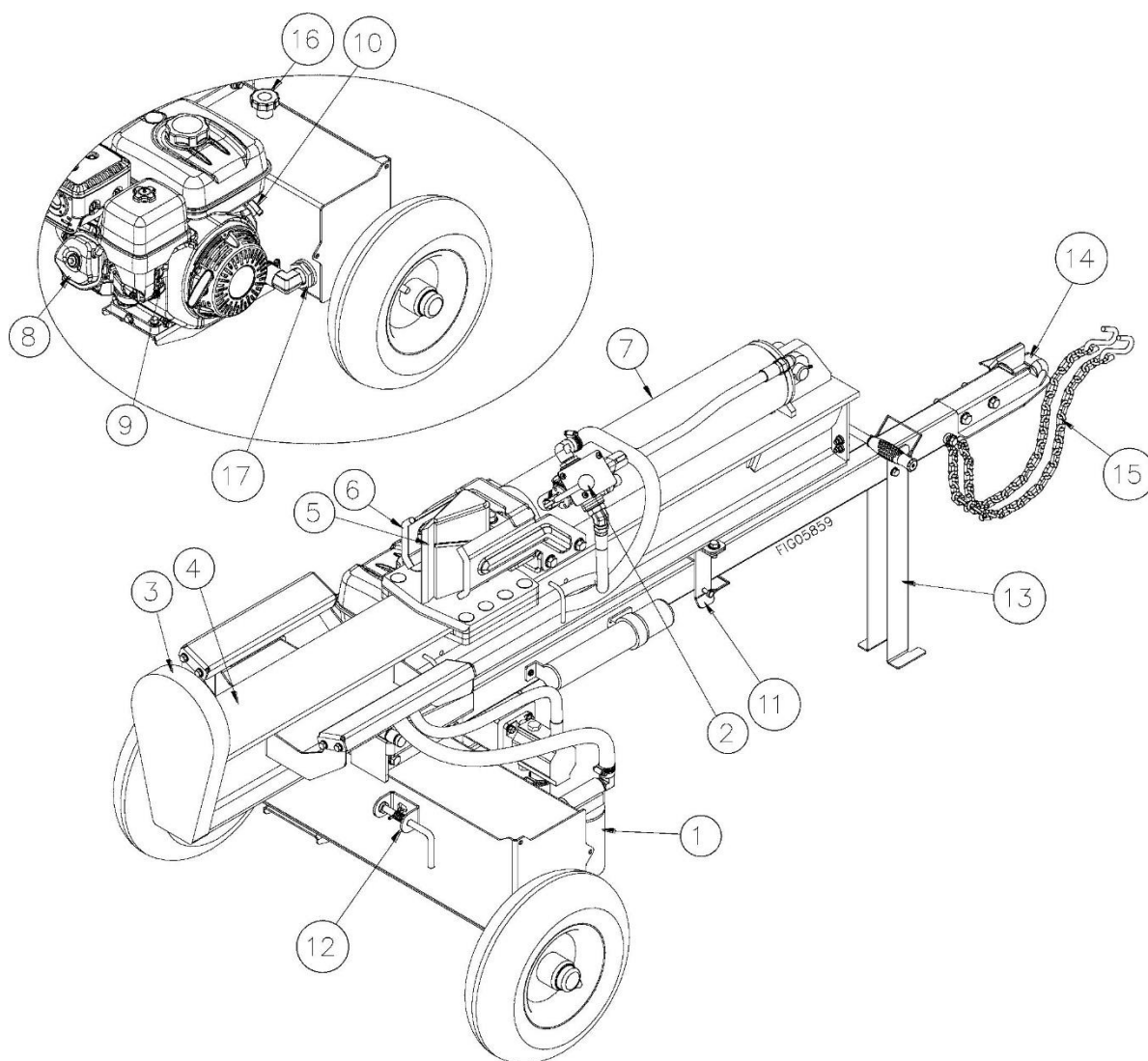
ログスプリッタは絶対に改造しないでください。改造は重大な安全上の危険をもたらす可能性があります。

- ログスプリッタには、安全な使用のために純正部品以外は取り付けしないでください。
- エンジンには適正な最高回転に設定されています。エンジン回転数の設定を変更して、より速い速度で運転しないでください。
- 排気システム、燃料タンク、燃料ラインを変更または追加しないでください。火災の原因となります。
- ロープ、ケーブル、またはその他のリモートデバイスをコントロールバルブ操作レバーに取り付けしないでください。
- ウェッジの高さや仕様を絶対に変更しないでください。
- 絶対にポンプやコントロールバルブの設定圧力を上げないでください。

オペレータの制限

- 取扱説明書を読まなかったり、ログスプリッタを安全に使用するように指導されていない方は、ログスプリッタを操作しないでください。
- 子供にログスプリッタを操作させないでください。
- すべての操作は一人で操作します。

ログスプリッタ部位名称



参照番号	説明
1	オイルフィルタ
2	コントロールバルブ
3	エンドプレート
4	本体ビーム
5	ウェッジ
6	ログディスロッジャー
7	シリンダ
8	エンジン

9	燃料コック
10	エンジンスイッチ
11	水平ロック
12	垂直ロック
13	ホイール付ジャッキ
14	2インチボールカプラー
15	安全チェーン
16	油圧タンクキャップ
17	油圧オイルストレーナ

現場への移動

⚠ 警告

ログスプリッタは重量がありますので移動時注意してください。

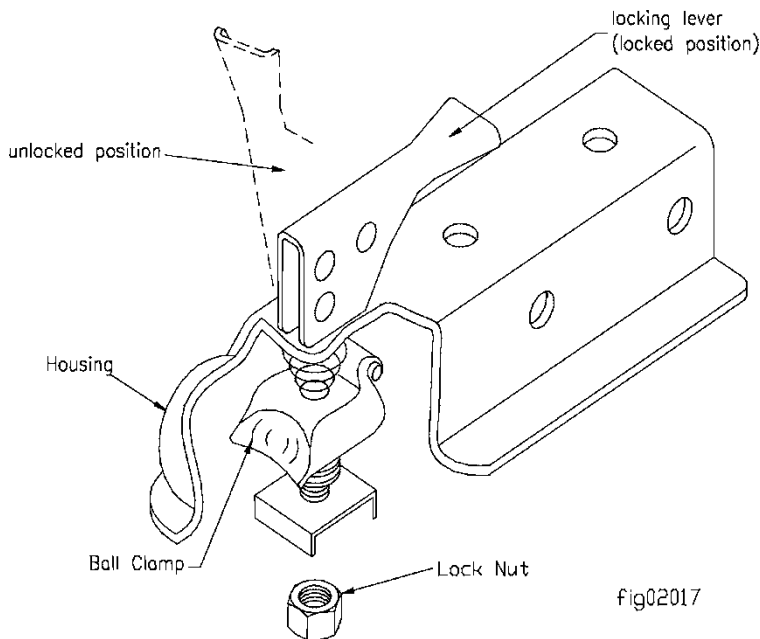
ログスプリッタを安全に移動および牽引するには、次の手順に従います。

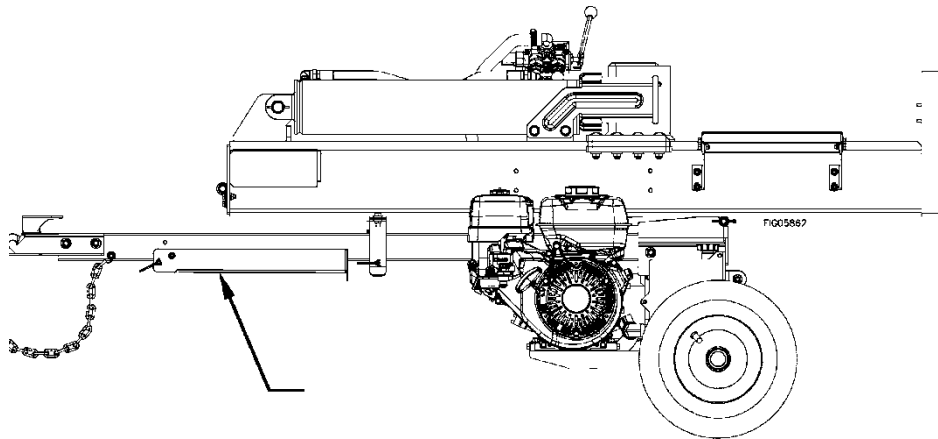
ログスプリッタを移動する：

1	水平位置にセット	移動する前に、ログスプリッタがラッチで水平位置にロックされていることを確認します。 ログスプリッタが垂直にセットされている場合は、不安定になり先端が曲がる可能性があるため、絶対に移動しないでください。
2	エンジンオフ	重要:ログスプリッタエンジンがオフになっていることを確認してください。エンジンが稼働している状態でログスプリッタを動かさないでください。
3	燃料コックオフ	燃料コックをオフにします。燃料コックの位置については、エンジン取扱説明書を参照してください。
4	移動	手動もしくは牽引車で作業場所に移動させてください。 ※重要な安全上の注意： - ログスプリッタを手で押して坂を移動させるときは重量があるので注意してください。 - ログスプリッタには、絶対に人を座らせたり、乗せたりしないでください。 - ログスプリッタ上に貨物や木材を乗せて輸送しないでください。

牽引：

1	牽引	私有地内のみで、公道は牽引できません。
---	----	---------------------

2	タイヤ点検	タイヤの空気圧や亀裂がないかを確認します。 ⚠ 警告 タイヤに空気を入れすぎないでください。タイヤが破裂すると重傷を負うことがあります。圧力が 60PSI を超えると、タイヤとホイールが破裂して爆発する可能性があります。
3	エンジンオフ	重要:ログスプリッタエンジンがオフになっていることを確認してください。エンジンが稼働している状態でログスプリッタを動かさないでください。
4	燃料コックオフ	燃料コックをオフにして、キャブレターの燃料漏れの可能性を減らします。燃料コックの位置については、エンジン取扱説明書を参照してください。
5	ヒッチボール	車両ヒッチにログスプリッタを取り付けます。 1.ログスプリッタのカブラは、2 インチのボールヒッチに取り付けてください。 2.カブラーはロックレバーを上げ、ロックナットをレンチで回してボールに合わせます。 3.適切な調整は、カブラーが可能な限りボールに密着し、ロックレバーが開閉可能な状態です。 4.ロックレバーを閉じて固定します。 ロックレバーにピンを差し込んで、牽引中にロックが外れないようにしてください。  The diagram illustrates the assembly of the hitch. It shows a 'locking lever (locked position)' and an 'unlocked position'. Other components labeled include 'Housing', 'Ball Clamp', and 'Lock Nut'. The figure is identified as 'fig02017'. 5.ロックレバーにピンを差し込んで、牽引中にロックが外れないようにしてください。
6	セーフティチェーンを接続する	セーフティチェーンを取り付けます。 1.牽引中は 2 本のセーフティチェーンを使用すること。 2.連結器の下にあるセーフティチェーンを交差させ、車両の旋回に十分な余裕を持たせます。
7	支持脚ロック	牽引時に十分な地上クリアランスを確保するため、支持脚（ホイール）を UP 位置に固定してください。

		
8		支持脚を DOWN 位置にロックし、車両から切り離します。 安全に関する重要な指示: • 運転はスプリッタを追加された車両の長さに注意してください。 • このログスプリッタを時速 60km/h 以上で牽引しないでください。速度が速くなると、制御できなくなる可能性があります。 • でこぼこの地形,起伏の多い地形の上を走るときは、ゆっくり運転し、十分に注意してください。 • やむを得ず公道で牽引する場合は、最寄りの警察署にご相談ください。 • アルコール、薬物、薬物の影響下にあるときは、このスプリッタを牽引したり操作したりしないでください。

使用前:点検/保守

ステップ 1：使用する前にログスプリッタを検査してメンテナンスする

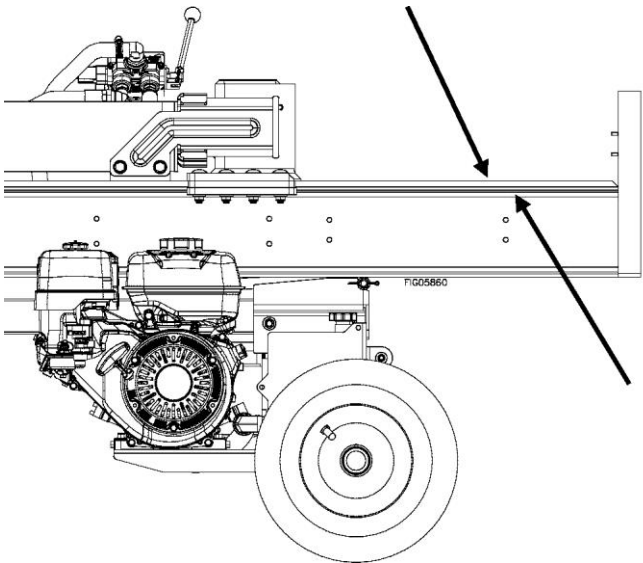
⚠ 警告

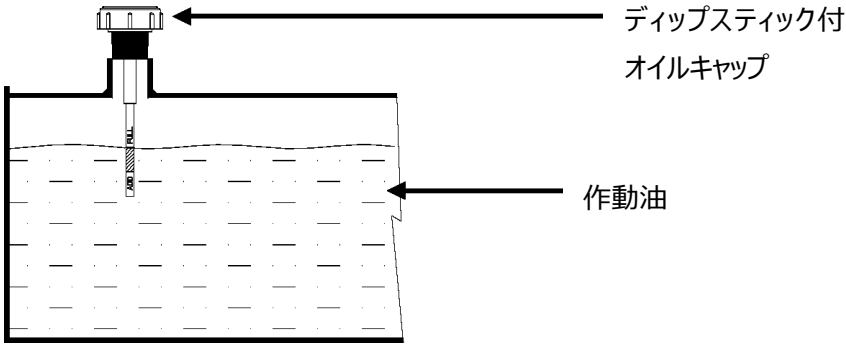
スプリッタの点検・清掃・調整・修理は、必ずエンジンを停止し、システムの圧力を抜いてから行ってください。コントロールレバーを数回前後に動かして、システムの圧力を軽減します。

重要:

部品を交換する必要がある場合は、メーカー純正部品のみを使用してください。適合しない社外部品は安全上の問題が発生したり、ログスプリッタの作動不良の原因となります。

1	エンジンオフ/ リリース圧	1.エンジンがオフになっていて、冷えていることを確認します。 2.プラグを抜いてください。 3.コントロールレバーを数回前後に動かして、油圧システムの圧力をすべて解放します。
2	ゴミの除去	エンジン、マフラー、可動部品のゴミを取り除きます。 1.高温のエンジンに付着した破片が火災の原因となることがあります。エンジンシリンダヘッド、シリンダヘッドフィン、ファンハウジング/リコイルスタータ、マフラー部分のゴミやくずを取り除きます。熱いマフラーに触れないでください。 2.その他の破片:可動部に付着した破片が過度の摩耗の原因となります。ビーム、ウェッジ、ログディスロッジャーおよびエンドプレートから破片を除去してください。 燃料タンクと燃料パイプに漏れがないか確認してください。 燃料漏れは火災の危険があります。
3	燃料タンク	燃料漏れがないか点検します。
4	機械部品	すべてのナットとボルトがしっかりと締められていることを確認し、ログスプリッタが安全な作動状態にあることを確認します。 ※ウェッジが移動するビームの上部、横、下にグリースを塗布します。

		
5	油圧システム	油圧システムを注意深くチェックします。 1.すべてのホース、チューブ、クランプ/継手、ポンプ、およびシリンダに亀裂、ほつれ、よじれ、またはその他の損傷がないか目視で点検します。 2.漏れの可能性がある油性の残留物がないか、すべてのコンポーネントをチェックします。破損や油性の残留物がある場合は、ログスプリッタを作動させないでください。油圧ラインの小さな漏れは、重大な損傷を引き起こす可能性があり、近い将来、壊滅的な故障の兆候となることもあります。 ⚠ 警告 油圧式ログスプリッタでは、高い流体圧力と温度が発生します。ピンホールほどの大きさの開口部から漏出した作動液が皮膚に熱傷を起こしたり、皮膚に穴を開けたりすると、創傷が生じ、敗血症、感染症、身体障害、壊疽、切断、死に至ることがあります。したがって、ログスプリッタの油圧機器の点検・整備にあたっては、常に次の事項に留意すること。 • ホース、チューブ、継手、その他のコンポーネントなどの油圧システムコンポーネントを変更または調整する前に、エンジンを停止し、スパークプラグを取り外し、すべてのコントロールバルブハンドルを前後に動かして圧力を緩和します。 • 絶対に手で漏れを確認しないでください。漏れは、段ボールや木材を片手で持って、もう一方の端を疑わしい場所の近く(アイプロテクションを装着する)に通すことで発見できます。段ボールや木材の変色に注意してください。 • ポンプやバルブの圧力設定は絶対に調整しないでください。 • 油圧漏れでけがをした場合は、傷口がどんなに小さくてもすぐに診察を受けてください。見た目には重症ではない小さな創でも、けがに詳しい医師が適切な治療をすぐに行わないと、重度の感染症や反応が生じることがあります。
6	作動油レベル	作動油のレベルを確認してください。オイルレベルがフルになっていることを確認します。必要に応じて補充します。注意：油量を確認するときは、ディップスティックをねじ込まない

		ください。  ディップスティック付 オイルキャップ 作動油 ⚠ 警告 エンジンが運転中または高温のときは、給油キャップを絶対に外さないでください。熱い油は、ひどい火傷の原因となることがある。ログスプリッタを完全に冷却してから給油キャップを取り外してください。
7	エンジン	エンジン取説の指示に従って、エンジンの点検及び整備を行うこと。
8	マフラスパークアレスター	マフラーのスパークアレスターを、定期的に掃除し点検してください。 破損している場合は交換してください。
9	タイヤ	スプリッタを牽引する場合は、タイヤの空気圧が適正で、適切なメンテナンスが行われていることを確認します。推奨タイヤ空気圧については、タイヤサイドウォールを参照してください。 ⚠ 警告 • タイヤに空気を入れすぎないでください。タイヤが破裂すると重傷を負うことがあります。 • 空気圧は 60PSI を超えないようにしてください。圧力が 60PSI を超えると、タイヤとホイールが破裂して爆発する可能性があります。

使用前-給油

ステップ 2:燃料補給

⚠ 警告

ガソリンは引火性と爆発性が高いです。燃料を扱う際にやけどをしたり、重傷を負ったりすることがありますのでガソリンの取り扱いには十分注意してください。

1	エンジンオフと冷却	エンジンを止めてから、燃料を補給する前に少なくとも 3 分は冷却してください。 ⚠ 警告 動作中のエンジンは燃料に点火するのに十分な温度です。エンジンが動いているときや、まだ熱いときは、燃料を補給したり、燃料キャップを外したりしないでください。
2	補給場所	燃料タンクに屋外で満タンにします。決して屋内で補給しないでください。 ⚠ 警告 ガソリンの蒸気が屋内に充満すると爆発の恐れがあります。
3	燃料キャップ	エンジン燃料キャップを外します。
4	ガソリンを追加	認定された燃料容器から充填口を通してガソリンを補給する。 重要な安全上の注意: - 承認された容器を使用する。ガソリンスタンドでは、燃料を直接エンジンに入れないでください。 - ガソリンを入れすぎないでください。補給口の下に 2cm 以上の空き領域を確保すること。燃料膨張の許容範囲 - 燃料を補給している間は、熱源、火災、または火花から離れてください。
5	オーバーフロー	燃料漏れ/飛散物を速やかに清掃する。 1.ログスブリッタを地面にこぼれた燃料から離してください。 2.エンジンの燃料を拭き取り、余分な燃料が蒸発するのを 5 分間待ってからエンジンを始動します。 3.ガスがしみこんだぼろ切れは可燃性であり、適切に処分してください。 4.皮膚や衣服にガソリンをこぼした場合は、すぐに着替えて皮膚を洗ってください。
6	燃料キャップ取付	エンジンを始動する前に、燃料キャップを確実に締めてください。
7	ガソリン貯蔵	余分なガソリンは、認定された密閉された容器で、低温で乾燥した場所に保管します。

使用前:作業場所の選択と設定

ステップ 3:作業場所の選択とログスプリッタの設定

⚠ 警告

スリップや転倒、機器の転倒・転倒、一酸化炭素中毒、不慮の火災などのリスクを最小限にするために、適切な作業場所を選定し、ログスプリッタを適切に設置することが重要です。

1	場所を選択	ログ・スプリッタを操作する適切な場所を選択します。使用前に作業現場を点検し、危険の可能性を確認する。 要件: 1.足場の良い乾いている場所 泥、氷、高い草、雑草、雪のある場所は避けてください。 2.屋外 。平らな場所 ⚠ 警告 走行中のエンジンからは一酸化炭素が放出されますが、これは有毒ガスで、人を殺す可能性があります。匂いを嗅いだりしないでください。 • ログスプリッタを住宅から離して屋外でのみ作動させてください。 住宅、車庫、物置、その他の建物または半密閉空間などこれらの空間は、たとえファンを動かしたり窓を開けたりしても、有毒ガスが充満します。。 • ログスプリッタ使用中に気分が悪くなったり、めまいがしたり、体が弱ったりしたら、すぐにエンジンを切って空気を入れ替えてください。医者に診てもらってください。一酸化炭素中毒の可能性があります。
2	火災時の注意事項	火災に備えて、次の点に注意してください。 1.乾燥している土地、草で覆われた場所の使用に有効な、エンジンマフラーにスパークアレスタが装備してあります。 2.必ず、各地方の規定に従ってください。 3.乾燥した場所でログスプリッタを操作するときの予防措置として、消火器を用意することをお勧めします。。
3		可燃性または引火性の物体に、運転中エンジンからの高温の排気ガスにより火災が発生することがあります。また、高温のエンジンに作動油が漏れたりすると発火することがあります。
4	支持脚を固定	
5	ホイール固定	ログスプリッタが意図しない動きをしないように、ホイールをブロックします。
6	グリースを塗布	ウェッジが移動するビームにグリースを塗布します。（毎使用時）

運転操作

△ 警告

作業を開始する前に、ログスプリッタを安全に操作するために、次の指示および安全性情報を確認してください。

これらの規定に従わないと、飛来物、火傷、火災、落下、転倒等により、可動部が潰れたり、裂けたり、もつれたり、一酸化炭素中毒を起こし、運転者や見物人が重傷を負う可能性があります。

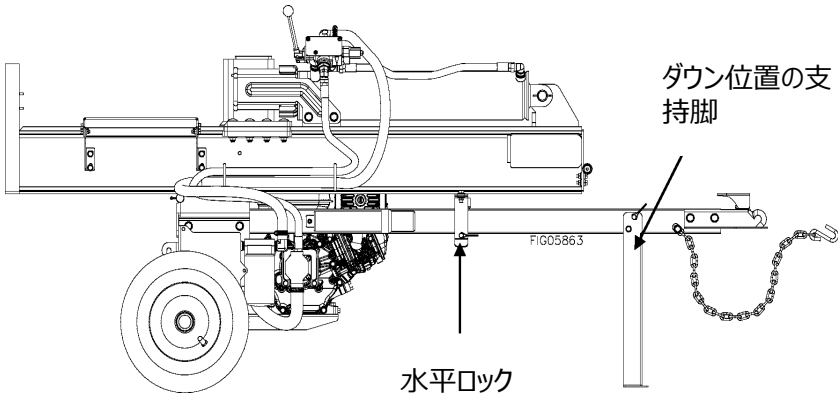
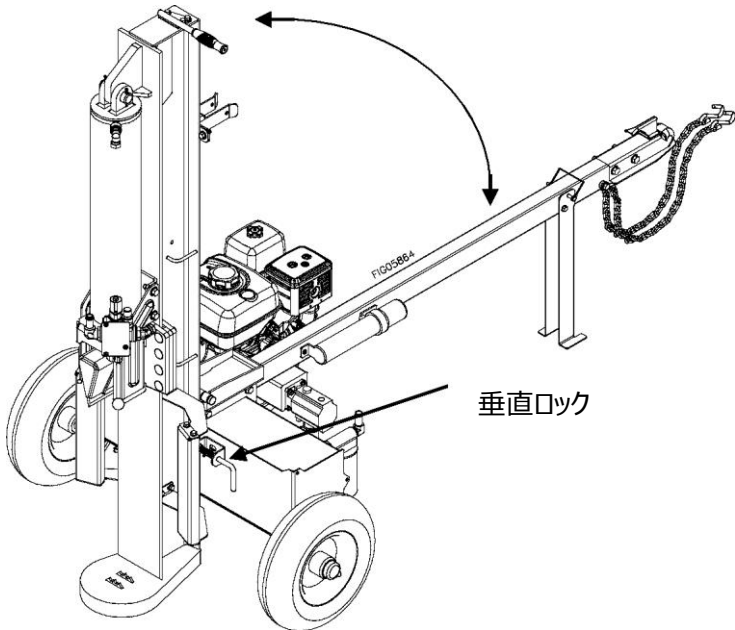
一般的な安全性情報

- 取扱説明書を読んだり、ログスプリッタの安全な使用方法を指示されたりしていない方は、ログスプリッタを操作しないでください。ログスプリッタの所有者は、すべてのオペレータに安全な操作方法を指示する必要があります。
- 子供にログスプリッタを操作させないでください。
- ログスプリッタは木材の縦方向の分割にのみ使用してください。不測の事態を招く恐れがありますので、他の用途には使用しないでください。
- ログスプリッタは絶対に改造しないでください。改造すると、重大な安全上の問題が発生し、保証対象外となります。
- ログスプリッタには、純正のパーツやオプション品以外は取り付けないでください。
- エンジンの最高速度は安全限界に設定されています。エンジン回転数の設定を変更して、より高い速度で運転しないでください。
- 排気システム、燃料タンク、燃料ラインを変更または追加しないでください。火災の原因となります。
- ロープ、ケーブル、またはその他のリモートデバイスをコントロールレバーに取り付けしないでください。
- ウェッジの改造は絶対にしないでください。
- 絶対にポンプやコントロールバルブの設定圧力を上げないでください。
- すべての安全装置が適切な場所に設置され、正常に作動し、すべての制御装置が安全に作動するように適切に調整された状態で、ログスプリッタを常に作動させてください。
- すべての制御および装置の適切な使用方法について十分に理解してください。必要に応じてログスプリッタを停止し、システムの圧力を迅速に軽減する方法を習得します。
- ログスプリッタは、常に製造元の推奨速度で操作してください。エンジンポンプとウェッジの最高速度は、安全限界内にあらかじめ設定されています。
- ログスプリッタを使用するのは、作業内容を確認できるように、昼間だけにしてください。
- ログスプリッタ操作中は絶対にタバコを吸わないでください。また、火気の近くでは絶対に使用しないでください。
- アルコール、薬物、薬物の影響下でログスプリッタを操作したり、他の人に操作させたりしないでください。
- エンジン運転中は絶対に機械から離れないでください。
- 少なくとも 3 分はエンジンが冷めるまでは給油しないでください。
- スプリッタのクリーニング、修理、調整を行う前には、必ずエンジンがオフになっていることを確認してください。ただし、製造元が推奨する場合を除きます。さらに、ホース、チューブ、継手、その他のコンポーネントなど

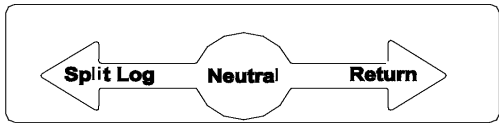
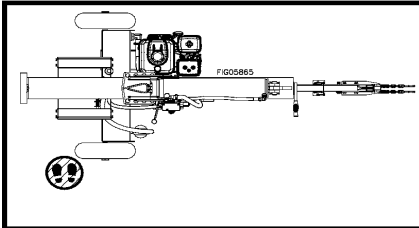
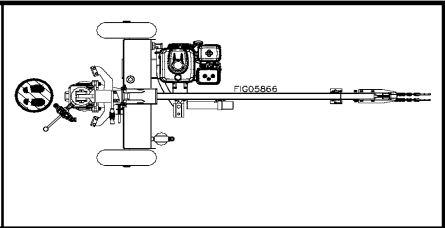
の油圧システムコンポーネントを変更または調整する前に、コントロールハンドルを前後に動かしてシステムの圧力を軽減します。

- 安全ラベルが正しく貼られていることを常に確認してください。安全ラベルがないか、判読できない場合は、安全でない操作が行われる可能性があるため、新しいラベルを注文してください。

1	防護服/防具 を着用する	次の保護衣と安全装置を着用してください。 1.機械を操作するときは、必ず安全眼鏡またはゴーグルを着用してください。丸太片が飛び出すことがあり、眼に重篤な損傷を与えることがあります。 2.丸太が倒れて足がつぶれることもあります。安全靴または重いブーツを使用して、作業を行ったり、丸太を積み込む作業を行ってください。 3.ぴったりフィットする手袋を着用してください。 4.耳栓などの聴覚保護具の使用が推奨されます。 5.だぶだぶの衣服はご遠慮ください。衣服が緩んだり、ぶら下がったりすると、可動部分に引っかかることがあります。宝石類やゆったりした衣服は絶対に着用しないでください。
2	本機固定	ログスプリッタが意図しない動きをしないように、ホイールを固定します。次の点を確認してください。 1.支持脚部は、DOWN 位置にロックされる。 2.タイヤの固定。
3	水平または垂直に設定	ログスプリッタを水平分割位置または垂直分割位置のいずれかに設定します。水平分割位置は、ビームに容易に載せることができる軽量のログに使用されます。垂直分割位置は、ビームへ載せることが困難な重い丸太に使用されます。 注意： 適切な体力ない場合、または丸太が人の体格、体重、または力に対して重すぎる場合、丸太をビームに持ち上げた結果、筋骨格の損傷が生じることがあります。垂直分割位置を使用すると、丸太をスプリッタ上に持ち上げる必要性を大幅に減らすことができ、楽に作業できます。 ⚠ 警告 エンジンの作動中に作業位置を変更しないでください。マフラーに触れてひどいやけどを負うことがあります。
3.1	水平位置に設定	水平ロックを確認して、ビームが水平位置で確実にロックされていることを確認します。支持脚のダウン位置の固定を確認します。

		
3.2	垂直位置に設定	1. 水平ロックキャッチピンを引き出し、リフティングハンドルを握り、回転して次の垂直位置に来るまでビームを持ち上げます。重いので慎重に作業します。 ⚠ 警告 ビームは重いので、そのまま落とさないでください。指を怪我したり、スプリットが破損する恐れがあります。 垂直分割位置  2. 垂直ロックピンを使用して垂直位置でロックします。 3. 水平位置に戻すには、垂直位置のロックを解除し、リフティングハンドルと下部ビームをコントロールしながら、注意深くつかんでトウバーに載せ、キャッチピンでビームを水平位置にロックします。 重いので慎重に作業してください。
4	エンジンの始動	エンジンの始動方法については、エンジン取説を参照してください。

		⚠ 警告 やけど防止のため、停止直後のエンジンを始動する場合は、マフラーから離れてください。運転中のエンジンからは一酸化炭素という有毒ガスが発生し、人を死に至らしめます。匂いを嗅いだりしないください。ログスプリッタ使用中に気分が悪くなったり、めまいがしたり、体が弱ったりしたら、すぐにエンジンを切って空気を入れ替えてください。医者に診てもらってください。一酸化炭素中毒の可能性があります。
5	ログのセット	ビームにログをセットします。（下記のイラスト参照） 注意 a)ログスプリッタは木目を縦方向に切断するように設計されており、木目を横切るようには設計されていません。 b)このログスプリッタは、概ねログ長 60cm,直径 40cm 程度までの木材を処理するように設計されています。 正しいログの向き、誤ったログの向き ⚠ 警告 ログスプリッタの操作中は、必ずエンドプレート、ウエッジ、丸太から手と足を離してください。 安全に関する重要な指示: - 丸太をビームにセットする時は、木の皮側を持ち、木口を持たないこと。丸太とウエッジの間に手や体の一部を入れないでください。 丸太をエンドプレートに置き、ビームに寄りかかり安定するまで回転させます。丸太が大きすぎたり、形が変わったりする場合は、丸太とエンドプレートまたは地面の間に木製のシムを入れて安定させます。ログを安定させるために脚や膝を使用しないでください。丸太の上に手を置いて安定させてはいけません。 - ウエッジの移動。ウエッジの移動中にログをセットしないでください。 - エンジンが運転中でログスプリッタが水平位置にあるときは、ビームをまたいだり、横切ったりしないでください。つまずいたり大けがをすることもあります。 - 小口が直角に切断されていない丸太は、分割中に滑り落ちて安全上の危

		険となるか、又はログスプリッタに過大な力を加えることがあります。丸太を割る前に、チェーンソーを使って両端を直角に切ってください。 - 一度に複数の丸太を分割しようとししないでください。丸太が不意に機械から投げ出され、重傷を負うことがあります。 - 木目に沿って分割します。ログスプリッタを使用して丸太を横に分割しないでください。ログスプリッタが損傷し、丸太の断片が飛び散りオペレータや見物人が負傷する可能性があります。 - 二股丸太を割ろうとすると、ログスプリッタが破損する可能性があります。ログを分割する前に、チェーンソーで切断します。 - エンジン運転中に作業位置(水平/垂直)を変更しないでください。マフラーに触れてひどいやけどを負うことがあります。エンジン停止後も、熱いマフラーに触れないように注意してください。
6	ウェッジを動かす	コントロールレバーをエンドプレートの方向に動かして、ウェッジを作動させます。 スプリットコントロールレバー操作    ⚠ 警告 ウェッジが戻ってくる間は、何もしないでください。リターンストロークでも大きなけがをするほど強力です。可動部に手を近づけないでください。
7	ログを交換	分割されたログを交換します。。
8	使用後	1.エンジンをストップ。 2.エンジンのゴミを取り除きます。 高温のエンジンに付着した木の破片が火災の原因となることがあります。エンジンを切ったら、ゴミをきれいにします。エンジンシリンダヘッド、シリンダヘッドフィン、ファンハウジング/リコイルスタータ、マフラー領域。 ⚠ 警告 熱いマフラーに触れないでください。

		3.水平位置に戻します。 縦置きの場合は、横置きに戻して安定性を高め、運搬準備をしてください。熱いマフラーに触れないでください
--	--	---

保管

⚠ 警告

ガソリンの蒸気が引火して火災になることがあります。熱源、火災、または火花から離れた、十分に換気された貯蔵所を選択します

次の手順に従って、使用するログスプリッタを保存します。

1	シリンダ収納	ウエッジを完全に収納して、ロッドを腐食から保護します。
2	冷却	保存の 5 分前に機械を冷ます。 警告:高温のエンジンは火災の原因となることがあります。
3	ウエスで拭く	ビームとウエッジは腐食を防ぐために油性の布で拭いてください。
4	エンジン	エンジンの正しい保管方法については、エンジンの取説を参照してください。 注意： ガソリンは保管中に酸化して劣化します。エンジン内の古いガソリンは始動が困難になり、燃料システムを詰まらせる可能性のあるゴムの堆積物を残します。劣化の問題は数ヶ月以内に起こるかもしれません。 短期保管 1. 燃料貯蔵寿命を延ばすために燃料安定剤を追加するのもいいです。 2. 燃料コックレバーを OFF にして、燃料漏れの可能性を低減してください。 長期保存 燃料タンクとキャブレターは、取扱説明書の指示に従って燃料を抜いてください。 安全に関する重要な指示 • 屋外の換気の良い場所で、必ずタンクから燃料を排出してください。 • 燃料の取扱い中は、火気、火花等の熱源から遠ざけること。 • 燃料漏れ/飛散物を速やかに清掃する。
5	スプリッタ保管場所	ログスプリッタは腐食性物質、熱源、裸火、火花、などのない場所に保管してください。 ⚠ 警告 ログスプリッタのガスタンクが空であっても、残留ガソリン蒸気が発火する可能性があります。 注意： ログスプリッタは肥料等の腐食物の近くに保管しないでください。

6	ガソリン貯蔵	ガソリンは、認定された密閉容器に入れ、低温で乾燥した場所に保管してください。  警告 ガソリンの蒸気が格納倉庫内にたまると発火し、爆発することがあります。
---	--------	---

定期保守

⚠ 警告

スプリッタの清掃、調整、修理は、必ずエンジンを停止し、スパークプラグを外し、システムの圧力を抜いてから行ってください。コントロールレバーを数回前後に動かして、システムの圧力を軽減します。

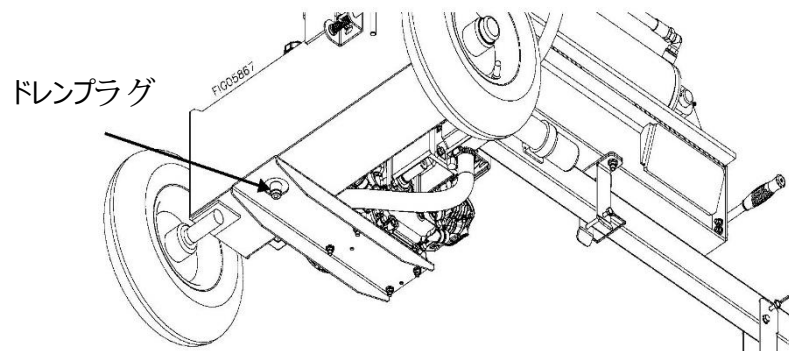
重要:

部品を交換する必要がある場合は、メーカーの仕様を満たす純正部品のみを使用してください。機能する交換部品仕様が満足しないと、安全上の問題が発生したり、ログスプリッタの作動不良の原因となります。

1	エンジンメンテナンス	エンジン取説に規定されているエンジンメンテナンスを実施する。
2	油圧オイル交換	毎年または 100 時間ごとに作動油を交換してください。 警告: 油圧式ログスプリッタでは、高い流体圧力と温度が発生します。ピンホールほどの大きさの開口部から漏出した作動油が皮膚に熱傷を起こしたり、皮膚に穴を開けたりすると、創傷が生じ、敗血症、感染症、身体障害、壊疽、切断、死に至ることがあります。したがって、ログスプリッタの油圧機器の点検・整備にあたっては、次の事項に留意すること。 - 絶対に手で油漏れを確認しないでください。漏れは、段ボールや木材の端を片手で持って、もう一方の端を疑わしい場所の近く(アイプロテクションを装着する)にかざすことで発見できます。段ボールや木材の変色に注意してください。 - 絶対にポンプやバルブの圧力を調整しないでください。 - オイルが漏れてけがをした場合は、傷口がどんなに小さくてもすぐに診察を受けてください。見た目には重症ではない小さな傷でも、けがに詳しい医師が適切な治療をすぐに行わないと、重度の感染症などが生じることがあります。 油圧オイル交換 - ウェッジを完全に収納させます。 - 点火プラグのワイヤを外し、燃料コックを OFF にしてください。 - 油圧作動油 32"オイルをご使用ください。 - エンジンをオフにした状態で、コントロールレバーを数回前後に動かして、油圧システムの圧力を軽減します。 - 作動油給油キャップを外します。 ⚠ 警告 エンジンが運転中または高温のときは、給油キャップを絶対に外さないでください。熱い油は、ひどい火傷の原因となることがある。ログスプリッタを完全に冷

却してから給油キャップを取り外してください。

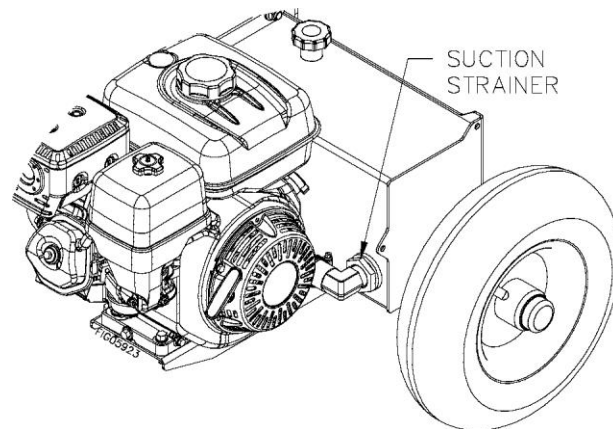
6. 油圧タンクからドレンプラグを取り外し、作動油を排出します。



7. ドレンプラグを取り付け直します。必ずシールテープを巻いてください

8. サクションストレーナを外し、乾いた布でゴミを拭き取ってください。

9. ネジ部にシールテープを巻き、サクションストレーナを取り付け直します。



10. 廃油は適切な処理場で処理してください。使用済み作動油は有害廃棄物です。

11. 油圧タンクに規定量給油し、給油キャップを閉めてください。

12. 作動油がポンプを通して循環するように、スターターグリップを少なくとも 20 回引きます。

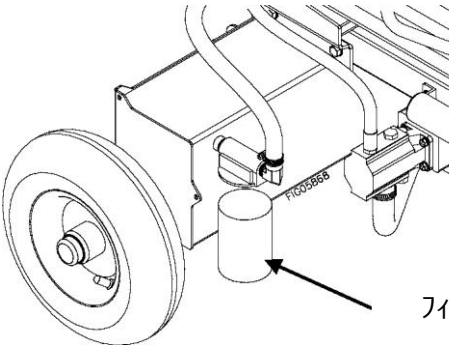
13. 点火プラグにプラグキャップを接続し、燃料コックを ON にしてください。

14. エンジンを始動してください。ウェッジを 5 回伸縮させて、システムからエア抜きます。

15. エンジンを停止して、ウェッジを収納した状態で作動油の液面を確認する。オイルレベルがフルになっていることを確認します。必要に応じて補充します。

注意：

油量を確認するときは、ディップスティックをねじ込まないでください。

3	オイルフィルタ交換	最初の 50 時間の運転後、またそれ以降は 250 時間ごとにオイルフィルタカートリッジを交換します。 1. ログスプリッタのエンジンを停止します。 2. コントロールレバーを数回前後に動かして、油圧システムの圧力をにがします。 3. オイルフィルタキャニスタを外し、適正に廃棄してください。 注意：レンチが必要な場合があります。  フィルタキャニスタ 4. 新しいキャニスタシールに少量の潤滑剤を塗布します。 5. 新しいキャニスタを取り付け、ガスケットがヘッドに当たったら 3/4 回転で手締めします。
4	スパークアレスターマフラー	エンジンのマフラスパークアレスターは、定期的(エンジンメーカーの取扱説明書に従う)に掃除し点検してください。破損している場合は交換してください。

トラブルシューティング

⚠ 警告

トラブルシューティングや保守作業を行う前に、下記の安全上のご注意をよくお読みください。可動部が破損したり、破損したり、やけどをしたり、火災や爆発を起こしたり、高圧作動油が漏れたりするなど、作業員や見物人に重傷を負わせないようにしてください。

重要な安全上の注意:

1. ログスプリッタの掃除、修理、調整を行う前には、必ずエンジンがオフになっていることを確認してください。ただし、動作テストする場合を除きます。
2. 油圧式ログスプリッタには高い流体圧と温度が発生します。
ピンホールほどの大きさの開口部から漏出した作動油が皮膚に熱傷を起こしたり、皮膚に穴を開けたりすると、創傷が生じ、敗血症、感染症、身体障害、壊疽、切断、死に至ることがあります。したがって、ログスプリッタの油圧機器の点検・整備にあたっては、常に次の事項に留意すること。
 - ・ ホース、チューブ、継手、その他のコンポーネントなどの油圧コンポーネントを変更または調整する前に、エンジンを停止し、スパークプラグを取り外し、コントロールバルブのハンドルを前後に動かして圧力を緩和します。
 - ・ エンジン運転中は給油キャップを外さないでください。熱い油は、ひどい火傷の原因となることがあります。ログスプリッタを完全に冷却してから給油キャップを取り外してください。
 - ・ ポンプやバルブの圧力設定を変更しないでください。
 - ・ 手で油漏れを確認しないでください。漏れは、段ボールや木材の端を片手で持って、もう一方の端を疑わしい場所の近く(アイプロテクションを装着する)にかざすことで発見できます。段ボールや木材の変色に注意してください。
 - ・ けがをした場合は、傷口がどんなに小さくてもすぐに診察を受けてください。見た目には重症ではない小さな傷でも、けがに詳しい医師が適切な治療をすぐに行わないと、重度の感染症などが生じることがあります。

問題	
ウェッジが移動しない	解決策:A、D、E、H、J
伸縮時のウェッジ速度が遅い	解決策:A、B、C、H、I、K
木が割れない、または非常にゆっくりと割れない	解決策:A、B、C、F、I、K
分割中にエンジンが停止する	解決策:G
低負荷時のエンスト	解決策:D、E
原因	解決策
A- 給油量不足	オイルタンク内のオイルレベルの確認
B- オイル中のエア混入	タンク油面確認、サクションライン漏れ確認
C- ポンプ入口真空度が高い	ポンプ入口ホースに詰まりやよじれがないか確認してください。
D- 油圧ラインのつまり	スプリッタ油圧システムを点検洗浄する
E- コントロールバルブのつまり	スプリッタ油圧システムを点検修理する

F-	コントロールバルブ圧力設定不良	圧力計でリリーフバルブを調節する
G-	コントロールバルブ圧力設定不良	圧力計でリリーフバルブを調節する
H-	コントロールバルブ破損	コントロールバルブ交換
I-	コントロールバルブ内オイルリーク	コントロールバルブオイルシール交換
J-	シリンダピストンの破損	シリンダ交換
K-	シリンダピストンシール不良	シリンダオイルシール交換

ログスプリッタの修理、部品のお問い合わせは、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

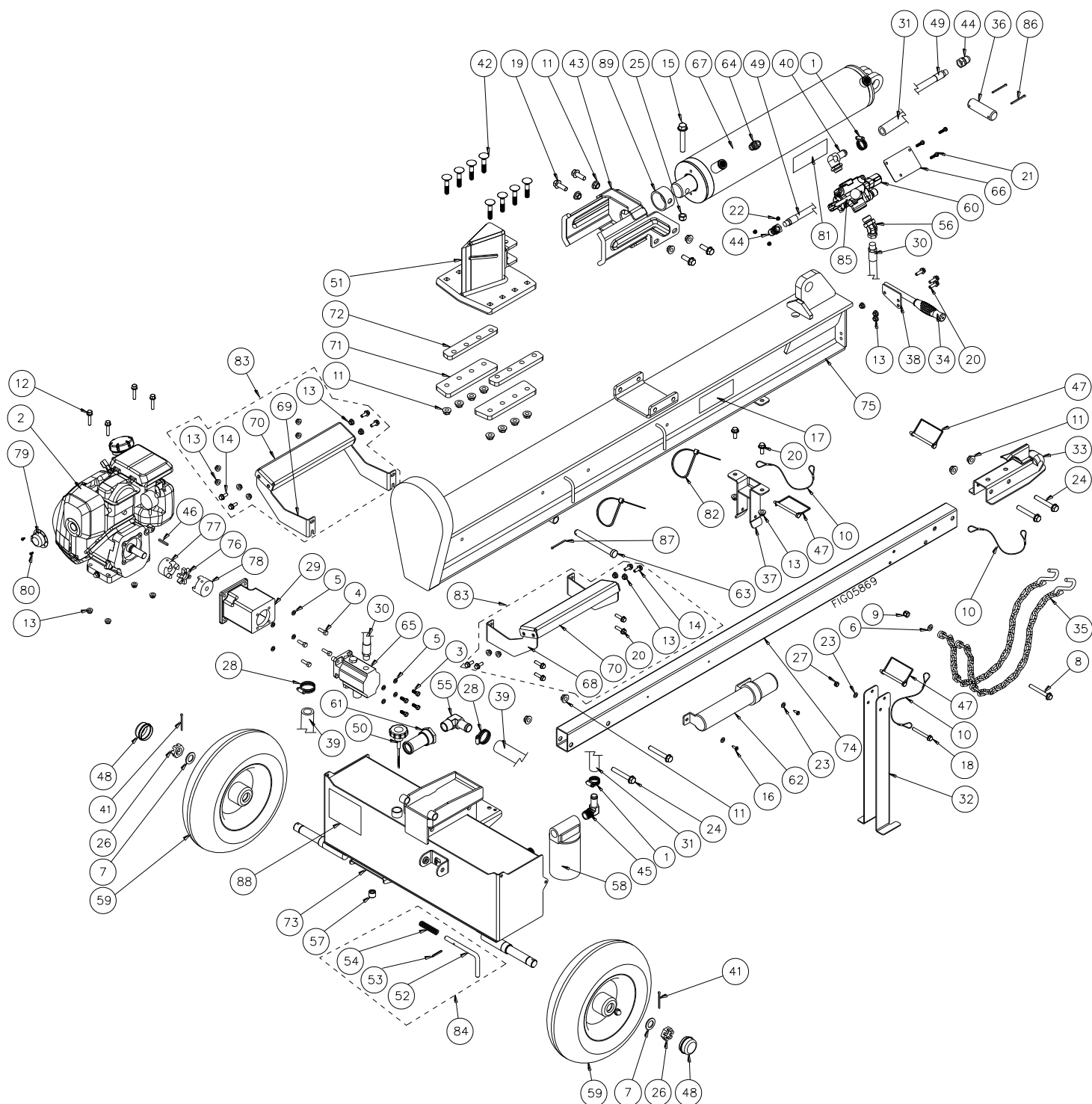
仕様

	VH2400GX	VH3000GX
最大破碎力 (米トン)	24 トン	30 トン
バルブ最大圧力	3500PSI	3500PSI
油圧ポンプ	11GPM	16GPM
油圧タンク容量	26L	26L
油圧システム容量 (シリンダ、タンク、ホース、フィルタ)	33L	35L
油圧オイル	油圧作動油 32"	
サイクルタイム	13 秒	11 秒
エンジン	ホンダ・GX160	ホンダ・GX270
ヒッチボールサイズ	2 インチ	2 インチ
最大牽引速度	60km/h	60km/h
操作位置	垂直/水平	
最大処理長	64cm	64cm
最大処理直径	40cm	40cm
油圧シリンダボア	4 インチ	4.5 インチ
油圧シリンダストローク	24 インチ	24 インチ
ログデイスロッジャ	標準装備	標準装備
ログクレイドル	標準装備	標準装備
全体寸法 (cm)	210L x115W x105H	210L x115W x113H
乾燥重量	240kg	250kg
オプション	純正ボディカバー	純正ボディカバー

※仕様は予告なく変更することがあります。

製品、アフターサービスのお問い合わせ、パーツのご注文に関するお問い合わせは、購入した販売店または、当社にご相談ください。

VH-2400GX ・ VH-3000GX パーツリスト



ユニットキー:D=VH2400GX、E=VH3000GX

参照	パーツ	説明	#	単位
1	17141	3/4"ホースクランプ	2	すべて
2				
	GX160	ホンダ・GX160 エンジン	1	D
	GX270	ホンダ・GX270 エンジン	1	E
3	82087	5/16 インチ-18x 3/4 インチ HHCS	4	D
	82089	5/16 インチ-24x 3/4 インチ HHCS	4	E
4	82601	5/16 インチ-24x1 インチ HHCS	4	すべて
5	82100	5/16 インチスプリットロック座金	8	すべて
6	82201	M10 座金	1	すべて
7	778844	軸座金	2	すべて
8	82266	M10-1.5 x80 インチ HSF	1	すべて
9	82270	M10-1.5 ロックナット	1	すべて
10	782689	18 インチワイヤ	3	すべて
11	82642	M12-1.75 ロックナット	16	すべて
12	82280	M8-1.25 x40 インチ HSF	4	すべて
13	82281	M8-1.25 フランジナット	21	すべて
14	82292	M8-1.25 x20 インチ HHCS	8	すべて
15	82528	M14-2x85 インチ HSSF	1	すべて
16	82529	M6x. 75 セルフタッピンねじ	2	すべて
17				
	800656	デカール、ビームロゴ、VH1724GX	2	D
	800657	デカール、ビームロゴ、VH1730GXI	2	E
18	82546	M8-1.25 x70 インチ HSF	1	すべて
19	82551	M12-1.75 x1 1/4 HSFF (2.5 型)	4	すべて
20	82561	M8-1.25 x25mm フランジボルト	9	すべて
21	82562	M6-1x35 インチ BHCS	3	すべて
22	82563	M6-1 ニロック NUT	3	すべて
23	82564	M8 平座金	3	すべて
24	82569	M12-1.75x80HSF	4	すべて
25	82570	M14-2 ロックナット	1	すべて
26	777124	スピンドルキャッスルナット	2	すべて
27	777495	M8-1.25 ロックナット	1	すべて
28	777835	13/16 ホースクランプ	2	すべて
29	3030	ポンプブラケット小	1	D
	BR020110	ポンプブラケット (大)	1	E
30	794797	HP サブライホース 1/2	1	すべて
31	794798	LP リターンホース 3/4	1	すべて
32	795052	サポート脚 ホイール付	1	すべて
33	BR008540	2"トレーラー連結器	1	すべて
34	778459	ハンドグリップ	1	すべて
35	1130	27"チェーン (フック付)	2	すべて
36	778592	シリンダピン	1	すべて
37	794939	ビームレスト	1	すべて
38	794924	ハンドル	1	すべて
39	796918	LP ホース 1	1	E
	795038	LP ホース 3/4	1	D
40	778642	エルボ	1	すべて
41	BR008301F	割りピン	5	すべて
42	794794	M12-1.75 キャリッジボルト	8	すべて
43	794653	ログディスロジャー	1	すべて
44	778827	FNPT 回転エルボ	2	すべて
45	778829	MNPT ホースエルボ	1	すべて
46	82141	キー、3/16 x1-1/2	1	D
	82143	キー、1/4 x1-3/4	1	E
47	778498	ピンキャッチ、5/16	2	すべて
48	124A	ダストキャップ	2	すべて
49	794799	HP シリンダホース	1	すべて
50	784455	LS ブリーザー/ディップスティック	1	すべて

参照	パーツ	説明	#	単位
51	794647	ウェッジ	1	すべて
52	788243	ラッチロッド、ショート	1	E
	790897	ラッチロッド、ロング	1	D
53	788244	ラッチロッドピン	1	すべて
54	788245	ラッチスプリング	1	すべて
55	778829	MNPT エルボ	1	D
	788504	NPT X1 エルボ	1	E
56	791219	12MOR-8FP X45 エルボ	1	すべて
57	787711	1/2 インチ磁気六角プラグ	1	すべて
	791244	フィルタヘッド	1	すべて
58	BR001113	オイルフィルタキャニスタ	1	すべて
59	BR008301	ホイールアセンブリ	2	すべて
	791869	コントロールバルブ	1	すべて
60	BR004101-SK	バルブシールキット	1	すべて
	4011	3/4 インチストレーナ	1	D
	790470	1 インチストレーナ	1	E
62	790471	チューブ	1	すべて
63	790472	ピボットピン	1	すべて
64	790488	ストレートフィッティング	1	すべて
65	791861	16GPM ポンプ	1	E
	791862	11GPM ポンプ	1	D
66	791187	バルブプレート	1	すべて
67	794826R	4.5 インチシリンダ	1	E
	794826K	シリンダーシールキット	1	
	794827R	4 インチシリンダ	1	D
	783885	シリンダーシールキット	1	
68	794721	右ログクレードルマウント	2	すべて
69	794937	左ログクレードルマウント	2	すべて
70	794722	ログクレードル面プレート	2	すべて
71	794528	キーバー	2	すべて
	794529	キーバスペーサ (小)	2	E
72	794700	キーバスペーサ (大)	2	D
73	794474	車軸/タンク溶接	1	すべて
74	794487	トウバー	1	すべて
75	794479	ビーム、小	1	D
	794506	ビーム、大	1	E
76	BR006001B	L 090/095 カップリングインサート	1	E
	BR006002	L075 カップリングインサート	1	D
	BR006001C	L095x1"カップリング	1	E
77	BR006002	L075x 3/4"カップリング	1	D
	BR006001D	L095x 1/2"カップリング	1	E
78	BR006002	L075x 1/2"カップリング	1	D
79				
80				
81	796120	24 トン デカル	2	D
	796121	30 トン デカル	2	E
82	82157	ジップタイ	2	すべて
83	794722K	クレードルキット(左と右)	1	すべて
84	788243K	ラッチロッドキット、ショート	1	E
	790897K	ラッチロッドキット、ロング	1	D
85	791869HK	ハンドルキット	1	すべて
86	796084	シリンダ割りピン	2	すべて
87	792778	ヘアピン割りピン	1	すべて
88	796117	デカル、ブレイブロゴ	1	D、E
			1	
89	790564	アダプタスリーブ	1	D、E

BRAVE

輸入元

BRAVE 輸入日本総代理店
株式会社五十嵐商店
941-0023 新潟県糸魚川市上覚 124-3
025-555-2505

発売元

ハスクバーナゼノア(株)
0120-830-110

販売代理店



MADE IN THE U.S.A.